

国際シンポジウム「日本に請来された“宋元仏画”をめぐって」

◇プログラム◇

9:00 開館・受付開始

9:20 事務連絡

9:30～9:35 開会挨拶 松本 伸之（京都国立博物館 館長）

9:35～9:45 主旨説明 井手 誠之輔（九州大学 名誉教授）

9:45～10:45 第1セッション

発表：「世界をうつしだす絵画—宋時代の仏画と山水—」

塚本 鷹充（東京大学 教授）

コメンテーター：「普悦「阿弥陀三尊像」における線描の宗教的意味」

増記 隆介（東京大学 准教授）

「阿弥陀像を用いる南宋浄土の実践行」

西谷 功（花園大学 准教授）

10:45～11:45 第2セッション

発表：「牧谿筆「観音猿鶴図」への問題提起」

ユキオ・リピット（ハーヴァード大学 教授）

コメンテーター：「南宋時代禅余画の地域性」

板倉 聖哲（東京大学 教授）

「「観音猿鶴図」と13世紀（南宋—鎌倉時代）の3幅対をめぐって」

森 道彦（京都国立博物館 主任研究員）

11:45～12:00 休憩

12:00～13:00 ディスカッション（午前の部）

13:00～14:00 昼食休憩・展覧会見学

14:00～15:00 第3セッション

発表：「現地取材の観点からみた大徳寺伝来五百羅漢図の制作と地域社会」

井手 誠之輔（九州大学 名誉教授）

コメンテーター：「李公麟から劉松年へ —羅漢図における宮廷様式スペクトル」

陳 韻如（国立台湾大学 教授）

「大徳寺蔵「五百羅漢図」の研究の視座について」

大原 嘉豊（京都国立博物館 教育室長）

15:00～16:00 第4セッション

発表1：「李晟筆「弥勒下生変相図」の修理と版本曼荼羅の発見」

森橋 なつみ（京都国立博物館 研究員）

発表2：「像と画をつなぐ腹蔵儀礼—妙満寺本と高麗の仏腹蔵をめぐる研究の新地平」

李 勝慧（韓国東亜大学校 准教授）

発表3：「曼荼羅と陀羅尼が息づく韓国仏画：腹蔵が生む仏画の生命」

金 延美（韓国梨花女子大学 教授）

16:00～16:10 休憩

16:10～17:25 ディスカッション（午後の部、総合討議含む）

17:25～17:30 閉会の挨拶 尾野 善裕（京都国立博物館 学芸部長）

以上